

令和2年度 滋賀県介護職員職場環境改善支援
(介護ロボット導入支援)事業費補助金 事業計画書

法人(事業者)名	株式会社〇〇〇〇		
介護事業所名	△△デイサービスセンター		
介護保険事業所番号	2599999999	サービス種別	通所介護
所在地	大津市京町四丁目〇-〇		
利用定員	30人	介護ロボットの種別	移乗支援(非装着型)
介護ロボットの製品名	〇〇〇〇		
導入する介護ロボットが見守り機器の場合の通信環境整備の有無			有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
導入予定時期	令和2年12月	導入台(セット)数	2台
リース・レンタルの場合の契約予定期間	令和 年 月から令和 年 月まで		
【1. 介護ロボット導入または通信環境整備に至る経緯】			
※何をどう改善するために導入するのかといった、雇用環境の状況を含めた現状、課題、解決策を記載すること。			
(1)現状	慢性的な腰痛等の苦痛を抱える介護職員が15名中10名。身体的負担を理由とした離職者が毎年1名以上で、平均勤続年数が3年。介助の際に要介護者とともに転倒する事故が年2件起きている。		
(2)課題	介護職員の身体的な負担の減少、離職者の減少、利用者の安全確保		
(3)解決策	移乗支援の介護ロボットを導入し、効果的に活用することで介護職員の腰痛防止等の身体的な負担を軽減し、継続して勤務しやすい雇用環境を整える。また、要介護者の状態に合わせて介護ロボットを取り入れて安全に活用するための事業所内研修や定期的なミーティングを行う。		
【2. 介護ロボットまたは通信環境の活用計画】			
※1. の課題の解決に向けてどのような行程で活用してく予定か、3年間の計画を記載すること。			
1年目:腰痛に悩む職員の状況把握。事業所で介護ロボットの活用プラン(いつ・どこで・誰が・誰に対して利用するか、効果的な使用方法や留意点等)を整理し、所内の実習を行い、日常業務に組み込む。 2年目:前年実績を踏まえた検証を行い、活用プランに反映し、より効果的な活用を図る。所内で介護ロボットの活用リーダーを育成し、他の事業所と活用方法の共有を行う。 3年目:前年実績を踏まえた検証を行い、活用プランに反映し、より効果的な活用を図る。活用プランや前年までに培ったノウハウを踏まえて所内の介護ロボット活用方針とする。			
【3. 介護ロボット導入または通信環境整備により達成すべき目標、期待される効果等】			
※介護従事者の負担軽減等による離職防止および定着促進を中心に、数値を用いてできるだけ具体的に記載すること。			
(1)目標	令和2年からの3年間で慢性的に腰痛に悩む職員を0にするとともに、介助時の転倒事故を0にする。		
(2)効果	身体的な負担を理由とした離職者を0にし、平均勤続年数を10年にする。		

※「介護ロボットの種別」欄は、移乗介護(装着型)、移乗介護(非装着型)、移動支援、排泄支援、見守り、コミュニケーション、入浴支援、介護業務支援の別を記載すること。

※複数種別または複数種類の介護ロボットを導入する場合は、種別・種類ごとに作成すること。